

芦安中学校前期自己評価書

平成30年8月31日

南アルプス市立芦安中学校

1 前期自己評価の経過

(1) 前期教職員対象アンケート（8月）及び生徒対象・保護者対象アンケートの実施（7月）

(2) アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（8月）

本年度は、小中一貫校への移行の観点から、基本的に芦安小学校との共通質問項目で実施した。

2 学校評価の分析と改善方策

(1) 学校運営・学校経営

〔達成状況〕全体としては、良好な状態にあるといえるが、「報告・連絡・相談」は機能している面と不十分なところがある。PDCAサイクルの活用により、さらに充実した教育活動を展開していくためにも創造的・発展的な意見が出るように会議や打合わせをしていく必要性を感じる。計画的・継続的な取り組みを効果的に行うためにも「報告・連絡・相談」を機能させていく必要性を感じる。

〔改善策〕各分掌の職員同士が連携を取りながら、学校運営にあたっていく協働体制の構築により、相互補完しながら学校全体で取り組む意識をさらに高めていく。小規模校ならではの利点を最大限に生かせるように工夫していき、教育活動が常に全職員の共通理解のもとで進められるように、相互の信頼関係にもとづく教育活動を展開していく。

(2) 学習指導

〔達成状況〕授業の「楽しさ」「わかりやすさ」は大切にしながら、思考・判断・表現の場を適切に設けて、より深い学びとなるように授業の改善を図る必要性を感じる。「相互依存によつての自立」「新しい価値の創造」に課題があるように感じる。

〔改善策〕主体的・対話的で深い学びとは何かを意識した授業の工夫および改善を組織的な研究をもとにしていく。保護者と連携し家庭学習の習慣化を図っていく。

(3) 生徒指導

〔達成状況〕概ね良好な状態ではある。より豊かな学びの実現のためにも安心・安全な学校であることが前提となる。相談しやすい雰囲気のもと生徒・教師間および生徒間でのより確かな信頼関係の構築が必要である。

〔改善策〕自分の考えや意見を伝えるとともに、他者の話を傾聴する姿勢を生徒が持てるように、教職員が範を示し、信頼関係を深めるとともに、生徒の小さな変化を見逃さないなど、生徒理解に努め、効果的な指導とは何かを教師の指導と生徒の変容の面からしっかり見取る。

(4) 保護者・地域との連携

〔達成状況〕「学校林植樹」「芦安新緑やまぶき祭への協力」「引渡訓練」等，PTA活動は充実していた。全校登山（仙丈ヶ岳）は，生徒19名，職員6名，支援者6名，保護者等2名で実施でき，事前トレーニングや登山学習を計画的に行って万全の態勢を整え，充実した活動をすることができた。

〔改善策〕達成感や成就感，自然の素晴らしさや厳しさを実感できる取り組みを今後も考え，保護者・芦安ファンクラブ他の地域の方々の支援に感謝しながら，本校の特色を生かし，新たな伝統へとつなげていきたい。

(5) 学校の特色ある取り組み

〔達成状況〕地域人材の活用がある項目の評価がきわめて高く，その有用性を再認識する一方で，生活に密着した日常的な活動に関しては課題を残している。

〔改善策〕日常の学校生活の充実を図ることが，行事における生徒のさらなる成長へとつながることを意識して教育活動を展開していく。

重点課題

豊かな感性は，より豊かな活動によって培われるので，日常的なことであってもしっかりと見つめることを大切にする。自分自身の気づきや他者の気づきをもとに，対話や表現から何か新しいものが生まれるような土壌を創る。コミュニケーションにおける言葉のもつ影響力についての意識を教師自身が高めることで，豊かな表現や思いやりの心を育む。

学ぶ意義を感じられるように学ぶ価値のあるものに生徒たちをしっかりと出会わせることにより，自主的に学び，家庭学習も習慣化していくような授業の工夫・改善を図るとともに，教師自身が学ぶ姿勢をしっかりと示す。また，生徒の自治的な意識の高揚を図ることで，自主的な行動を促進していき，生徒の自己有用感や自己成就感を高める。

地域を知ることで「地域における自分」「集団における自分」といった視点を持ち，地域や集団への帰属感が高まり，地域とのつながりを考えるなかで中学生としてできることを実践していく活動の場を設定する。あるいは，地域の情報を適切に提供する。

一人ではできないようなことでも相互依存することによりできることがあるという実感を持たせる。「相互依存による自立」「新しい価値の創造」を職員の協働体制や職員自身の経験から，生徒に伝えるとともに援助要請や援助の在り方についても生徒に継続して指導する。